

石油よりも木の燃料(木質ペレット等)

日本のガソリンスタンドで灯油が売られているように、デンマークの、あるガソリンスタンドでは薪を売っていました。

薪だけではありません。デンマークでは、薪を高度化した、木質ペレットやブリケットも普及しています。デンマークでは家具の製造が盛んです。私が見学したペレット工場では、その木の削りくず等を集めて細かく砕いて粉状にし、それを乾燥させて固めて、木質ペレットやブリケットを作っていました。木質ペレットは直径8mm 長さ1~2cm 程度の円柱上の小さいものです。木質ペレットは、日本でも数は少ないものの売られてますが、それよりやや大きめですね。長いものもあり短いものもあり、結構バラバラでした。燃やすものですから、それで十分なのでしょう。

ブリケットは、5cm×10cm×10cm 程度の大きいものです。木質ペレットもブリケットも、薪より軽く、着火が容易で、火力が強いのが特徴です。木質ペレットは、それを火にくべる量を調整することにより、火力の調整ができます。ブリケットは、薪の代わりに使うのに便利です。

このような適切に管理された、植物による燃料は、カーボンニュートラル（本連載の「その4」を参照）ですから、化石燃料と違って地球温暖化に影響しません。デンマークでは、このようなところでも、温暖化への影響を少なくする努力をしているのです。

[←その6へ](#) [その8へ→](#)
[東京支部のトップページへ](#)
[CASAトップページへ](#)



薪やブリケットを売っていたガソリンスタンド



ブリケット(左上)、木質ペレット(右下)



ペレット工場